

2017年度 前期	リフレクションペーパー
-----------	-------------

学科名	生物環境化学科						
科目名	バイオセンシング						
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	前期		
必修・選択の別	選択必修科目						
担当者	大貫 宏一郎						
授業の到達目標 (シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・酵素の基質特異性は何に由来するか説明できる。 ・神経興奮など生体における情報伝達システムを描ける。 ・バイオセンサにおける信号変換方法を列挙できる。 ・バイオセンサの長所と短所を説明できる。 						
日程と内容	<p>第1回：導入講義、授業の進め方と概要の説明、成績評価法など。</p> <p>第2回：酵素の触媒能力</p> <p>第3回：酵素タンパク質の立体構造</p> <p>第4回：酵素の基質特異性</p> <p>第5回：酵素の諸性質（最適pH、最適温度など）</p> <p>第6回：酵素反応速度論</p> <p>第7回：酵素に関する総括</p> <p>第8回：生物の感覚、神経細胞</p> <p>第9回：神経興奮、跳躍伝導</p> <p>第10回：味覚の原理</p> <p>第11回：嗅覚の原理</p> <p>第12回：その他の化学感覚</p> <p>第13回：視覚の原理</p> <p>第14回：聴覚や触覚の原理</p> <p>第15回：バイオセンサーに関する総括</p> <p>定期試験</p>						
成績評価基準	定期試験	70%	実技				
	臨時試験	30%	部外評価				
	報告書・レポート		プレゼンテーション				
	課題		計	100%			
	演習						
授業到達目標の達成度	予定していた項目はすべて実施して、概ね達成できたと考えている。						
反省点	新しい体験型の授業を入れて評価も全体的に高まったため、今年度は上手く実施できたと考えている。						
来年度の計画	項目自体は同様として、難易度の最適化を図りたいと考えている。具体的には、高校生への出前講義やオープンキャンパスで実施している体験も盛り込むことで、興味を持ってもらえるように試行錯誤したいと考えている。						
授業評価アンケートに対するコメント	昨年度より、総合が8.0→8.3と0.3ポイント、また授業内容の理解度も4.1→4.2と0.1ポイント向上した。今年度は、オープンキャンパスで実施している体験型の内容も盛り込んだことにより、総合的な満足度が向上したのではないかと考えた。アンケートでも、好意的な意見が多かったように見受けられる。2年生までに実施した科目の復習的な部分もあるので、冗長にならないように気を付けたいと感じた。						
履修登録者数	57名	定期試験 受験者数	56名	合格者数	56名	合格率	100%